

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

<p>◆知的障がいのある生徒が就労を通じた潤いのある社会的自立をめざすチャレンジを支援する学校</p> <p>◆生徒の個別の特性・適性を正確に把握し、より適切で有効な支援をするために進化する学校</p> <p>☆社会的責任（存在価値） 全ての障がいのある生徒のチャレンジを支援するため、本校の実践と成果を広く社会に発信し、理解と啓発に努める。</p> <p>☆マーケティング（顧客志向） 生徒・保護者のニーズ、企業のニーズを的確に把握し、適切で効果的なマッチングを行う。</p> <p>☆イノベーション（継続的な改善・改革） 企業の求めるニーズ（人材）に応えるため、迅速かつ効率的に結果を出せる組織体制を構築する。</p>
---

### 2 中期的目標

<p>1 教育活動の外部への発信と積極的な関係機関との連携</p> <p>(1) 地域と本校の協同によるコミュニティ「たまがわランド」を本格的に運営し、地域に愛され、育てられる学校をめざす。</p> <p>(2) 職業学科を設置する高等支援5校の連携を進めるとともに、共生推進教室運営への支援を充実させる。</p> <p>(3) 本校の取り組みを積極的に外部に発信し、社会全体に障がいのある生徒のチャレンジを支援するよう働きかける。</p> <p>2 より適切で効果的なマッチングを基本とした進路指導体制の充実</p> <p>(1) 制度の変化や時代の変化を敏感にとらえ、企業のニーズに応える人材を育成し、より適切で効果的なマッチングにより就労率85%以上をめざす。</p> <p>(2) 生徒と企業の双方のニーズをマッチさせることにより、定着率を上げるとともに、実習先・雇用先の新規開拓につなげる。</p> <p>(3) 自立活動の時間を充実させ、適切な支援により生徒一人ひとりの課題を引き出し、社会的自立に必要な力を養う体制を構築する。</p> <p>(4) 社会生活において必要な知識を身につけるとともに、様々なことに興味や関心を持ち自主的に学ぶ力を育成する。</p> <p>3 今後の社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ校内体制の確立</p> <p>(1) 校内研修体制を更に充実させ、教職員間の意思疎通を図り、「チームたまがわ」として校務に取り組む機運を醸成する。</p> <p>(2) 進化を推進することができる人材の育成を図るため、委員会・プロジェクト等に若手・中堅教員を充て、学校経営への参画意識を高める。</p> <p>(3) ICT機器の積極的な活用により、「わかる授業づくり」と効率的な校務運営を図る。</p>
---

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○生徒・保護者（共生推進教室も）、教職員を対象に行った。以下、分析は「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つを肯定的、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」を否定的意見として昨年度と比較した。</p> <p>&lt;生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の生徒に対する理解に関する項目は全て5%以上上がっていることから、生徒は教員が時間をかけて向き合っていると感じている。</li> <li>・「授業を工夫している」については横ばいであるが、93%が肯定的で、生徒は教員がわかりやすく授業を行っていると感じている。</li> <li>・「学校行事」「委員会活動・部活動」に関する質問も5%以上上がっており、生徒は学校の教育活動に対して高い満足度を感じている。</li> <li>・全ての項目についてよい結果が出ており、自立活動の充実や「たまがわランド」等の地域コミュニティを導入したことなどにより、満足度が高くなったのではないかと考える。</li> </ul> <p>&lt;保護者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「障がいについての理解」「個別の教育支援計画・指導計画」の項目について5%以上改善されている。平素より生徒の教育に家庭との連携を保つことを心がけ、丁寧な説明をすることに注意を払っている。また、教職員研修でもこれらの内容について研鑽を深めているのでこの結果は更なる動機づけにつながる。</li> <li>・「保護者や地域への情報発信」で、5%以上改善しており、昨年度からホームページをリニューアルし、ご覧いただきやすくなったこと、連絡プリントや連絡帳の記入についても学年単位で共有し丁寧に行ってきたことが評価されたのではないかと考える。</li> <li>・ほぼ全ての項目で90%前後の肯定的結果が出ていて、多くの保護者の方が学校の教育活動に対しご理解いただいていると考える。</li> </ul> <p>&lt;教職員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活指導」「進路指導」に関連する項目で5%以上肯定的回答が増え、教職員が生徒のことを大切に考える体制づくりが進んでいることが伺える。</li> <li>・「校長のリーダーシップ」について否定的意見が増えていることは残念だが、決定のスピードを優先するため教職員の意見を十分聞き取れていないことが理由ではと考えられる。</li> <li>・「ライフ・ワーク・バランス」については、工程回答が46%と昨年度までも低かったが、今年度は37%と更に低くなった。次年度は全校一斉休日導入されることから、重点課題として取り組んでいく。</li> </ul>	<p>第1回（5/23）</p> <p>○就労定着支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離職数については一定の成果がでていますが、コミュニケーション力をさらに磨き、それ以上に大切なことは、困り感を訴える力をつけることが必要である。</li> <li>・自己肯定感を醸成することが大切である。そのため、グループワーク等を多く取り入れ、そのうえでほめる指導を通じて達成感を味わい、次につなげていく指導が大切である。</li> </ul> <p>○自立活動の時間の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から行っているが、効果を検証する必要がある。担任が時間をかけ生徒を支援し、課題を設定して改善していくことは大切であるが、アセスメントが大切である。</li> <li>・さまざまな取り組みをして、教員で共有しているのは業務削減につながりいいことであるが、自立活動の6領域のどれにあたるかを確認し、バランスよく行うことが必要である。</li> </ul> <p>第2回（12/19）</p> <p>○地域コミュニティ「たまがわランド」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一回実施されて、大変いい取り組みだという印象を受けた。特にカフェコーナーでのかき氷はよかった。7月で大変暑い時期であったが、地域の方に教育活動の成果を見ていただいたのではよかった。</li> <li>・地域にもどんどん広げていきたい。できることがあれば広報に協力していく。地元の方の方にもっと連携し、「たまがわ」ブランドがあればなお集客できるのではないかと。</li> </ul> <p>○部活動の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だけでなく、生徒たちが懸命に取り組んでいる部活動をもっと発信すべきである。素晴らしい成績を残している。中学生にとって部活動は魅力である。</li> <li>・長く働き続けるためには、体力や今期も必要、集団になじむことでコミュニケーションの力もついてくる。これからも積極的に取組ませてほしい。</li> </ul> <p>第3回（3/15）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離職者を無くすには、障がい者就業・生活支援センターに任せきりではいけない。卒業生たちはやはり学校の先生を頼りにしているので、できるだけアフターケアをしっかりしてほしい。今の時代、就労は当たり前、定着するための努力を一層してほしい。</li> <li>・就労、定着につなげていくために、保護者との連携が大切である。懇談等の機会を使い丁寧に説明が必要である。</li> <li>・職場実習の際にも対応はするので、できるだけ子供の特性を伝えてほしい。</li> <li>・ストレスチェックの結果が悪かったのは、特別支援教育免許保有率が少ないことも原因かもしれない。授業づくりに困り、それがストレスにつながっているのかもしれない。是非、労働安全衛生委員会等で議論してほしい。</li> <li>・たまがわランドは今後も続けてほしい。生徒達のスキル向上のためのいい機会となるので。</li> </ul>

## 府立たまがわ高等支援学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育活動の外部への発信と関係機関との連携	<p>(1) たまがわランドを本格的に運営 ア、運営計画の作成 イ、広報戦略の策定</p> <p>(2) 高等支援 5 校間の連携と共生推進教室への支援 ア、行事予定・年間授業計画・入学者選抜の徹底した情報共有 イ、金剛高等学校共生推進教室立ち上げの支援</p> <p>(3) 本校の取り組みを外部に発信 ア、外部機関との連携 イ、教育活動の外部への発信 ウ、見学・視察等の積極的な受入れ</p>	<p>(1) ア、各分野が安定した運営をめざし、たまがわランドの来校者数を増やす。 イ、地域住民への広報のため、市・自治会・公民館等にも積極的にアプローチする。</p> <p>(2) ア、校長会の中で高等支援部会を立ち上げ、校長部会・生徒指導部会等を通して情報共有を密にし、5校間の連携を図る。また、部活動等の交流を進める。 イ、各校の共生担当者と本校地域支援部の連携をより一層深め、設置校の教室運営に協力する。</p> <p>(3) ア、中小企業家同友会・ロータリークラブ等に積極的に出向き、生徒の就労先の開拓につなげる。また、障がい者雇用についての理解を求める。 イ、ホームページを充実させ、取組みをタイムリーに外部に発信する。併せて校長ブログも毎週1回更新する。 ウ、多忙な時期を除いて、積極的に受け入れる。</p>	<p>(1) ア、1回の運営で50人前後の来校者を目標とする。 イ、年間計画を完成し、早期から市の広報や学校便り等で地域に発信する。</p> <p>(2) ア、年間3回校長部会を開催する。また、生徒指導研究会・進路指導研究会等を運営し、新たに加わる12校との連携を図る。 イ、登校日の教員情報会議を丁寧に行い、連携を図る。</p> <p>(3) ア、定例会に年間5回以上出席し、本校の取組みを発信するとともに、企業のニーズを知る。 イ、学校評価アンケートの「保護者が本校HPを見る」割合を5%上げる。 ウ、たまがわランド開催日と見学・視察の受入れ日を重ね、新たな取組みの広報を行う。</p>	<p>(1) ア、年間3回実施し、7月の土曜日開催では100人以上来校、第3回は府支P会長交流会が本校であり定食を提供した。予想以上の出来栄で来校者から多くの謝辞をいただいた。(◎) イ、地域への学校新聞にも事前に案内し、当日はケーブルテレビの取材も入った。近隣の方々もインタビューに応じていただいた。(◎)</p> <p>(2) ア、メールにて学校見学会・入学者選抜・人事異動等について3回集中的に報共有を密にした。生徒指導研究会・進路研究会とも積極的に教員を派遣し、他校との連携に努めた。(○) イ、金剛高等学校には自身も1回、リーディングスタッフは2回派遣し、共生推進教室のサポートにあたった。登校状況が芳しくなかった2年生も職場実習に参加し、一定の成果は上がった。(○)</p> <p>(3) ア、G.C.C (ガットカンパニークラブ:経営者の会合)に2度出席し、職場実習受け入れ先を2社確保した。(○) イ、昨年度と比較し、肯定回答は61%→64%の微増、「全く見ない」は15%→12%と減り、改善した。(○) ウ、事業所対象の見学会にたまがわランドを重ね、うどんのセットを提供、他にクッキー等の販売も行い、本校生の日頃の成果をご覧いただいた。(◎)</p>
2 より適切で効果的な進路指導体制の充実	<p>(1) 定着率の向上、実習先の新規開拓 ア、卒業後の就労定着率を上げる。 イ、就労先の開拓を引き続き進める。</p> <p>(2) 自立活動の充実 ア、自立活動の効果の検証 イ、部活動・生徒会活動等の充実</p> <p>(3) 学ぶ力の育成 ICT機器の積極的な利用によるわかりやすい授業作り</p>	<p>(1) ア、より一層進路支援体制を強化し、卒業後のアフターフォローの体制を整備する。 イ、引き続き、生徒全員が職場実習をお願いできる企業の確保に努める。</p> <p>(2) ア、自立活動の時間に担任が丁寧な生徒支援ができるよう校内体制を整備し、自立活動内容の共有化を図り、各学年で取組みについて一定の方針を策定する。 イ、自立活動の要素を多く含むことから、運動系部だけでなく文科系部の加入率を増やす。</p> <p>(3) タブレット端末等の機器を利用した新たな授業作りを積極的に進める。</p>	<p>(1) ア、より一層丁寧なアフターフォローを心がけ、1年での離職者をなくす。 イ、中小企業家同友会や、関係諸機関と連携し、実習・雇用先の新規開拓を進める。</p> <p>(2) ア、学校評価アンケートの「先生に相談できる」の項目を5%上げる。また、「オールブラック賞」(皆勤賞)生徒数を5%増やす。 イ、生徒の部活動加入率80%以上を達成する。</p> <p>(3) 教職員アンケートで「授業でICT機器が活用されている」を5%増やす。</p>	<p>(1) ア、昨年度卒業生の離職者は非常に少ない。進路支援部教員を増員し、体制が整ったことが要因と思われる。アフターケアも10回以上対応し丁寧な支援ができたが、1年未満の離職は「0」を目標としたい。(△) イ、今年度夏休みに15社開拓したことから実習先の数は確保できたが、進路決定に幅を持たせるため同じ職種で複数の企業を確保したい(△)</p> <p>(2) ア、昨年度と比較し「障がいの理解」は87%→90%、「相談できる」は81%→84%と上昇した。引き続き自立活動を益々充実させ、家庭と連携して一層適切な支援を行う。(○) イ、80%は達成し、陸上・バスケットは全国大会出場、サッカーは近畿3位、ダンスは次年度近畿高等学校総合文化祭の開会式出場決定等目覚ましい成績を残した。(◎) (3) 80%で昨年並みにとどまった。(△)</p>
3 進取の機運に富んだ校内体制の確立	<p>(1) 校内研修体制の見直し ア、計画的・効果的な研修体制の充実 イ、会議の回数と時間の削減・短縮</p> <p>(2) 若手・中堅教員の責任職への登用</p> <p>(3) 統合ICTの更なる活用</p>	<p>(1) ア、「子どもの人権」については特に重点を置き研修を企画する。また、その他の研修も極力グループワーク等の機会を増やし、互いに意見をいいあえる風通しの良い職場環境を作る。 イ、毎日実施する職員朝礼を有効に使い、職員会議等の内容も精査して時間短縮に努め、生徒対応や教材研究の時間を確保する。</p> <p>(2) 昨年度に引き続きプロジェクト等の活動を加速する。中堅・経験の少ない教員の斬新な発想を支援し、校務遂行能力を育てる。</p> <p>(3) 職員室のLAN環境の整備を進め、職員室で全教職員が一人1台パソコンを使用できる環境を整える。</p>	<p>(1) ア、グループ協議の研修を年間3回以上企画する。 イ、会議時間・回数を10%削減し、連絡事項等については極力紙で掲示、ICT掲示板等で補う。 (2) 会議室の机を可動式に更新し多目的教室にして生徒のプレゼンテーション能力の向上を図る。そのため5人程度の教員を任命しプロジェクトチームを発足する。 (3) 教職員がICT機器のスキルを向上させ、ペーパーレスに努める。</p>	<p>(1) ア、グループワーク型の研修を3回実施し(子どもの人権1、ライフワークス2)、他にミニ研修(希望者)を7回実施し、自らも「保護者との連携について」の講師を務めた。(○) イ、今年度に入り、定例の職員会議で勤務時間を過ぎたケースは1回のみであった。内容を精選し、ICTを駆使して、会議時間を短縮し、その時間を生徒対応・情報共有にあてることができた。(○) (2) 机・椅子についてはすべて更新した。有効活用方法を若手中心のプロジェクトチームに任せた。今後生徒の学年単位での活動(キャリア教育・性に関する指導等)に利用可能である。(○) (3) 一人1台環境は整った。連絡掲示板・メール等の機能を使い、校務の効率化に努めている。ICT委員会の教員(5人)はいつでも質問に対応する体制をとり、講習会も2回開催した。(○)</p>